

2004 年度 委員会活動成果報告

(2005年3月1日作成)

委員会名	木質構造接合部設計法小委員会	主 査 名：小松幸平
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (木質構造運営委員会)	委員長名：西川孝夫 主 査 名：鈴木秀三
設 置 期 間	2004年4月 ～ 2007年3月	
設 置 目 的 各年度活動計画	個々の接合具を複数個用いて構成された接合部について、既往の事例を収集し、幾つかのパターンに類型化して、標準的な設計法を提示する。出来るだけ実務設計家を使い易い形で、具体的な数値計算例を取り混ぜて解説する。最終的には接合部設計ノートの形式で出版することを考える。	
委員構成 (委員名(所属))	青木謙治(東京大学)、板垣直行(秋田県立大学)、稲山正弘(稲山建築設計事務所)、小野 泰(ものづくり大学)、軽部正彦(森林総合研究所)、小松幸平(京都大学生存圏研究所)、植本敬大(建築研究所)、野口弘行(明治大学)、原田浩司(山佐木材)、堀江和美(木質構造研究所)、宮武 敦(森林総合研究所)、安村 基(静岡大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	なし	
2004 年度予算	100,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	木質構造接合部設計法小委員会を全9回開催。 (5/19・9名、6/28・10名、7/29・9名、9/7・9名、10/18・8名、 11/25・5名、12/20・8名、1/31・7名、3/14・?名)
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>既往の事例や設計資料の収集が中心である今年度は、各回の小委員会で数多くの資料の提出を受けた。複雑且つ多岐に亘る木質構造の接合法・設計資料が、多数、蓄積・紹介された。</p> <p>木質構造には、様々な接合法が混在しているが、それらの技術的な紹介はもとより、設計情報について網羅された資料は極々少ない。また阪神大震災を契機として技術的に大きく進歩した接合法やその評価は、耐荷メカニズムの解明と合わせて未整理の部分が多い。中立的学術組織である本会が、これらの部分について議論を尽くすことの意義は大きく、その成果の公表は社会が待ち望んでいるものである。現在、最終成果物に向けて、目次及び記述内容についても平行して討議を進めているところである。</p> <p>議事録及び各資料は、繁忙な各委員の便宜を図るために作業用のホームページに蓄積を進めているが、著作権上の問題から全ての公開は不可能である。</p> <p>委員会 HP アドレス：http://f82.ffpri-107.affrc.go.jp/karube/wsfdc/</p>
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 当初の活動計画に則して進行しているが、本年度予定された資料の収集整理のみならず、次年度予定であるの最終成果物の執筆に向けての検討を開始し、記述内容についての議論を進めている。
その他評価すべき事項	本小委員会は、開催回数・延べ参加委員数・提出資料数等からみて、活発な活動をしていると評価できる。 小委員会の運営と各委員の便宜を図るために、メーリングリストと作業用のホームページを設定・作成して活動している。